

北九州市立地適正化計画(改定案)【概要版】 令和6年3月

1 コンパクトなまちづくりの必要性

人口減少下においても、地域の活力を維持・増進し、都市を持続可能なものとするためには、医療・福祉施設、商業施設や住居等がまとまって立地し、高齢者をはじめとする住民が公共交通によりこれらの生活利便施設等にアクセスできるなど、福祉や交通なども含めて都市全体の構造を見直し、コンパクトなまちづくりを進めていくことが重要です。

また、令和6年3月に新たに策定した「北九州市基本計画・基本構想」では、本市が目指す都市像の実現に向け、充実した都市インフラを生かした魅力的な住環境の整備を推進するとともに、災害に強いコンパクトシティの形成を図ることとしています。

こうした状況を踏まえ、今回、北九州市立地適正化計画(平成28年9月策定)を見直し、今後もコンパクトなまちづくりをより一層推進します。

都市の現状と課題

地域活力の低下

- 人口減少、高齢化、人口密度のさらなる低下

拠点機能の低下

- 拠点である市街地中心部での人口密度の低下
- 未利用地の発生

公共交通の衰退

- 公共交通利用者は平成17年頃まで減少し、横ばい傾向

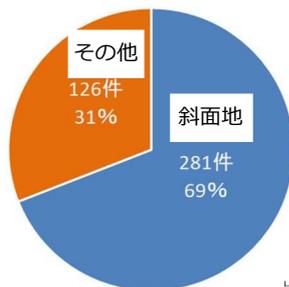
災害に対する不安感の増大

- 斜面地には土砂災害警戒区域も多く、高齢化率も高い

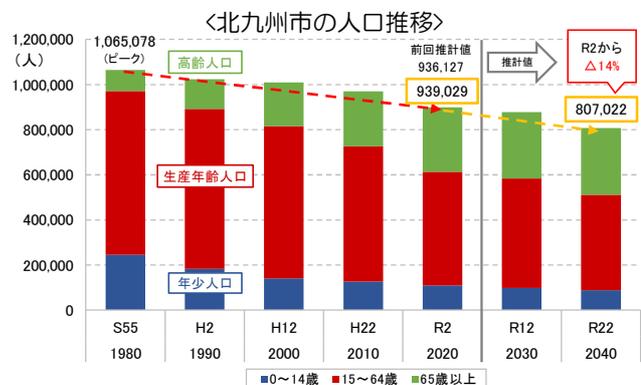
財政への影響

- 公共施設の大規模改修等の将来的な必要額は、近年の財政水準では大幅に不足

〈平成30年7月豪雨における崖崩れ発生状況〉

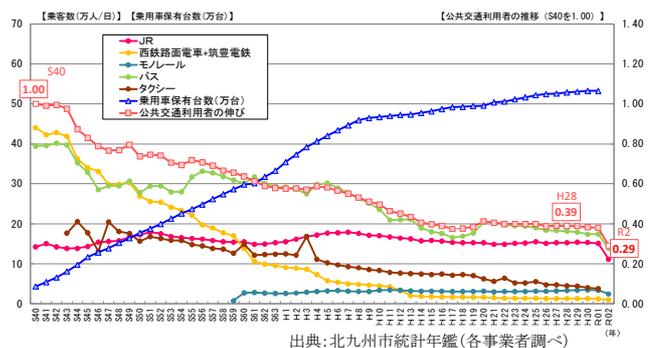


出典：北九州市調査



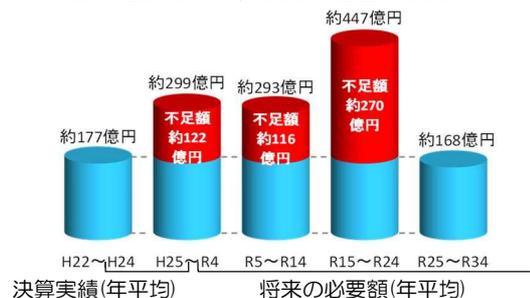
出典：総務省「国勢調査(昭和55年～令和2年)」、国立社会保障・人口問題研究所「日本の地域別将来推計人口(平成30(2018)年推計)」

公共交通利用者の推移



出典：北九州市統計年鑑(各事業者調べ)

公共施設の大規模改修・建替え費用



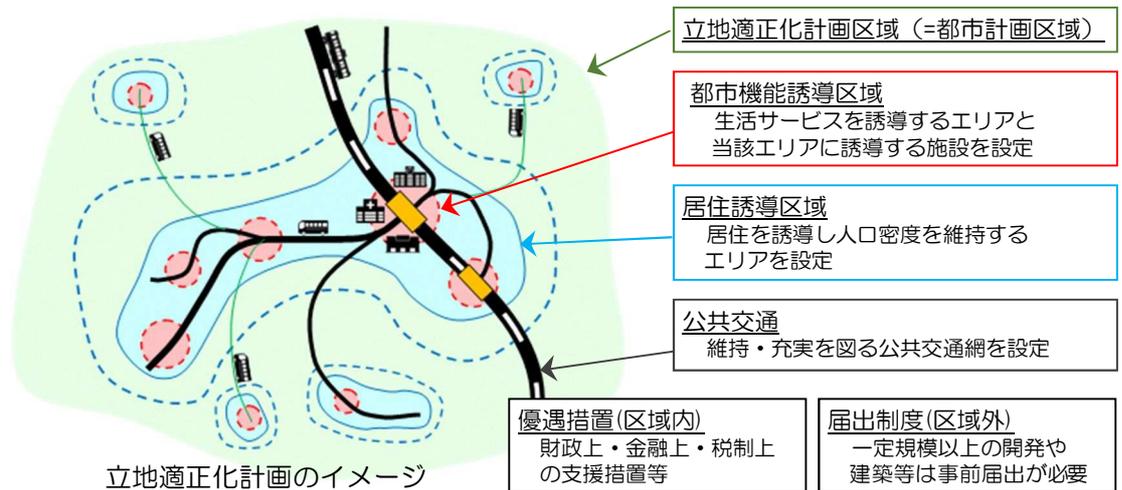
出典：北九州総務企画局 (H25.3)

2 計画策定の背景

(1) 立地適正化計画とは

平成26年8月、国において、急速な人口減少と超高齢化の状況でも、持続可能な都市経営を確保するため、都市のコンパクト化を積極的に推進することとし、都市再生特別措置法の改正により、「立地適正化計画」が制度化されました。

立地適正化計画とは、市町村が、都市全体の観点から、居住機能や商業・医療・福祉施設等の都市機能の立地、公共交通の充実等に関する包括的なマスタープランです。

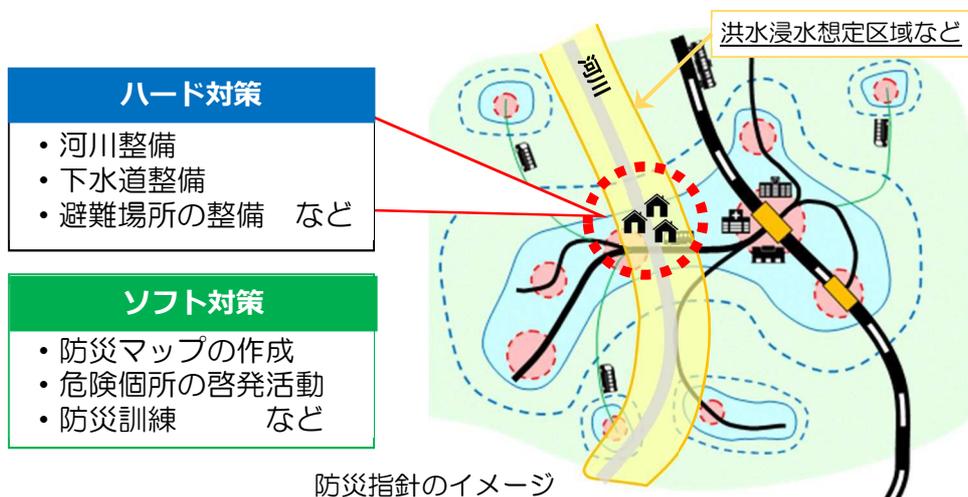


(2) 都市再生特別措置法の改正の動き（防災指針策定の背景）

近年、全国各地で自然災害が頻発・激甚化の傾向をみせており、そうした自然災害に対応するため、防災まちづくりの観点から、総合的な防災・減災対策を講じることが喫緊の課題となっています。

このため、令和2年6月に「都市再生特別措置法等の一部を改正する法律」が成立し、居住の安全確保などの防災・減災対策の取組を推進するため、「防災指針」の作成が位置付けられました。

防災指針は、居住や都市機能の誘導を図るうえで必要となる都市の防災機能確保に関する指針です。また、居住誘導区域内における災害リスクを出来る限り回避あるいは低減させるために、必要な防災・減災の取組を示していくものです。



3 計画の位置づけ等

本市は、平成15年11月に策定した北九州市都市計画マスタープラン（平成30年3月改定）において、街なか居住など都市計画の基本的な方針を明確にし、諸施策を総合的に展開してきましたが、コンパクトなまちづくりをより一層推進するため、平成28年9月に「北九州市立地適正化計画」を策定しています。

(1) 位置づけ

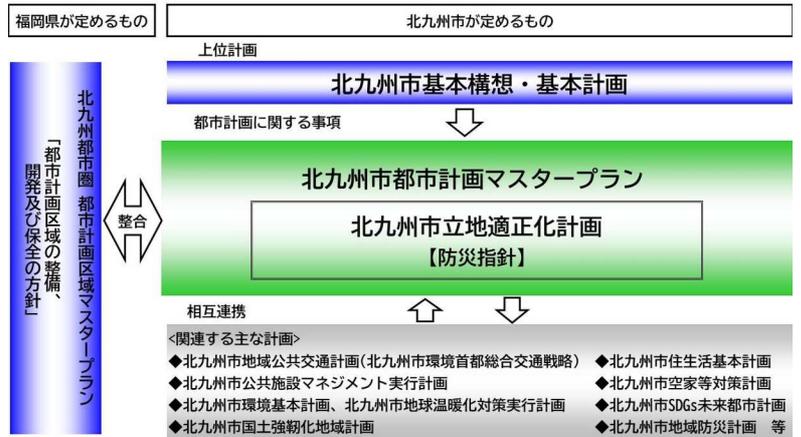
本市の基本構想等まちづくりに関する多様な分野の計画と連携しています。

(2) 対象区域

都市計画区域（市域のうち島しょを除く）とします。

(3) 目標年次

令和22年（2040年）とします。



立地適正化計画の位置づけ

4 北九州市の目指すべき都市像

(1) 北九州市基本構想・基本計画

目指す都市像：つながりと情熱と技術で、「一歩先の価値観」を体現する

グローバル挑戦都市・北九州市

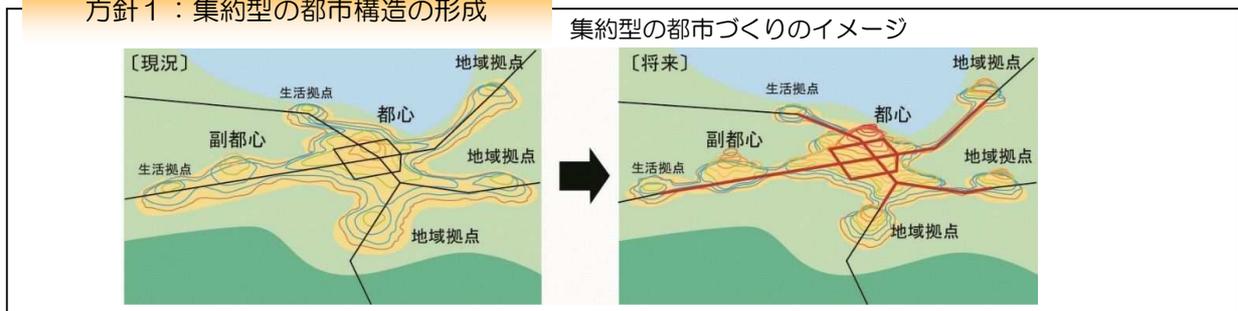
3つの重点戦略：「稼げるまち」の実現 ～人も企業も潜在力を開花できるまち～

「彩りあるまち」の実現 ～輝く個性と楽しさがあふれるまち～

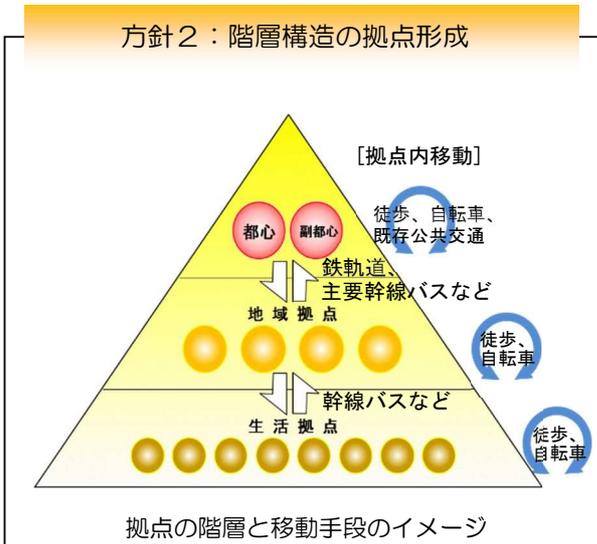
「安らぐまち」の実現 ～誰もがつながるアットホームなまち～

(2) 都市構造形成の基本的な方針

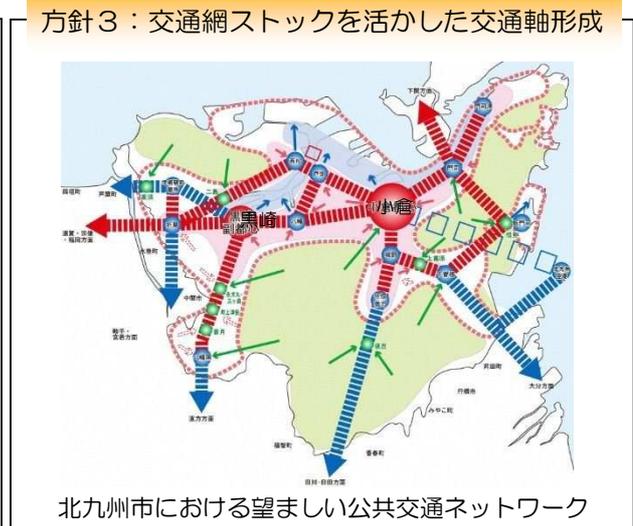
方針1：集約型の都市構造の形成



方針2：階層構造の拠点形成



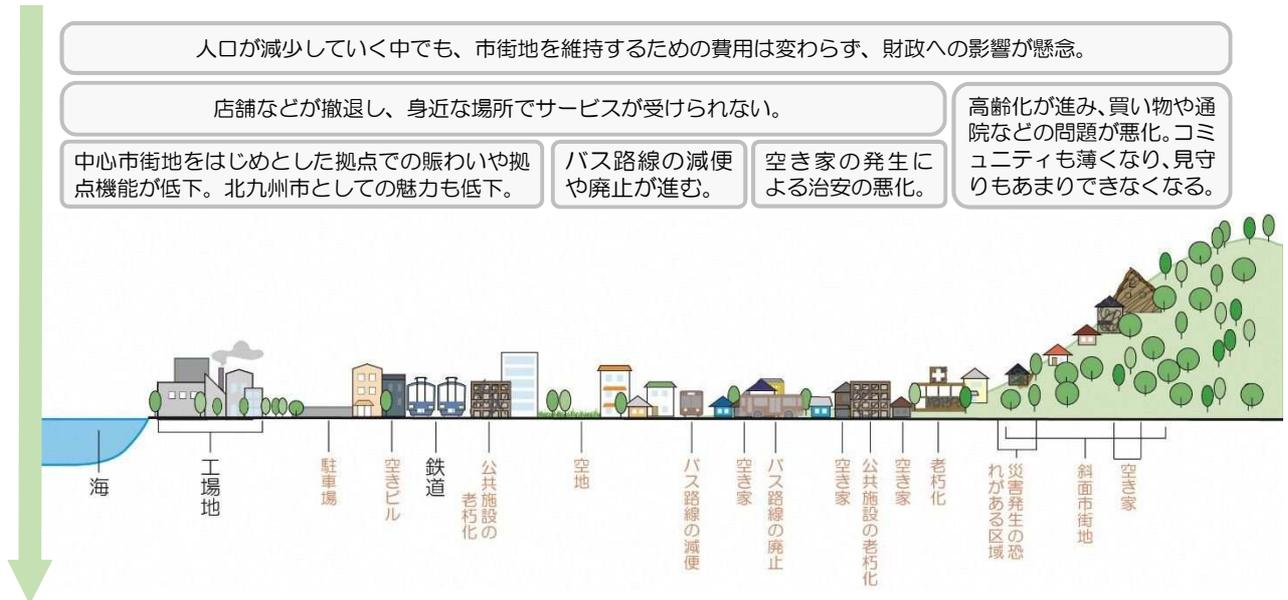
方針3：交通網ストックを活かした交通軸形成



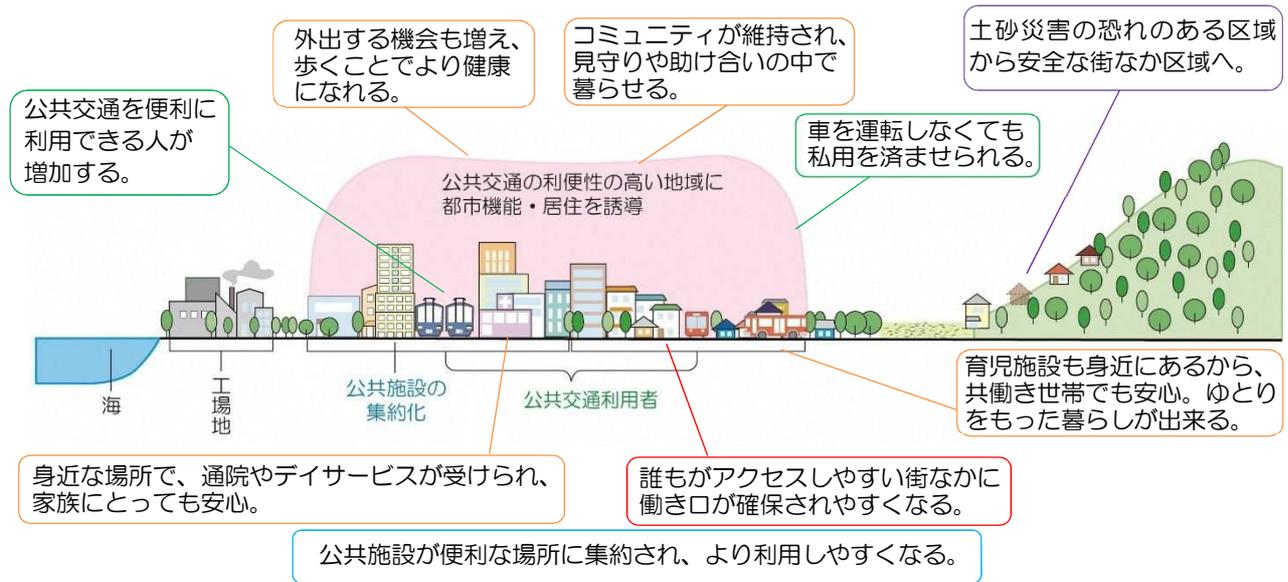
(3) 集約型の都市構造が進むことによる暮らしの変化のイメージ

[街なかのイメージ]

このままいくと25年後は

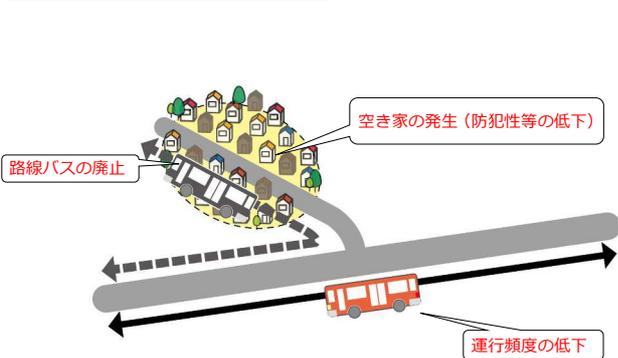


集約型の都市構造形成が進むと

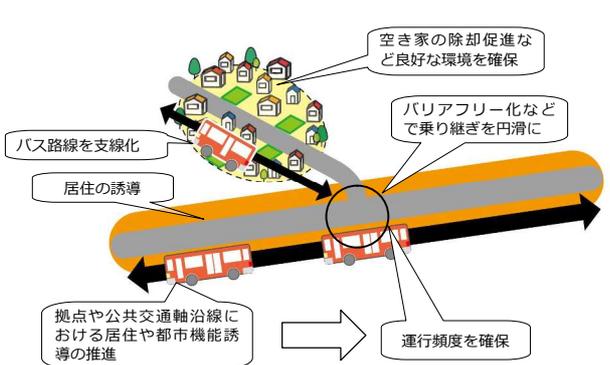


[郊外部のイメージ]

このままいくと25年後は



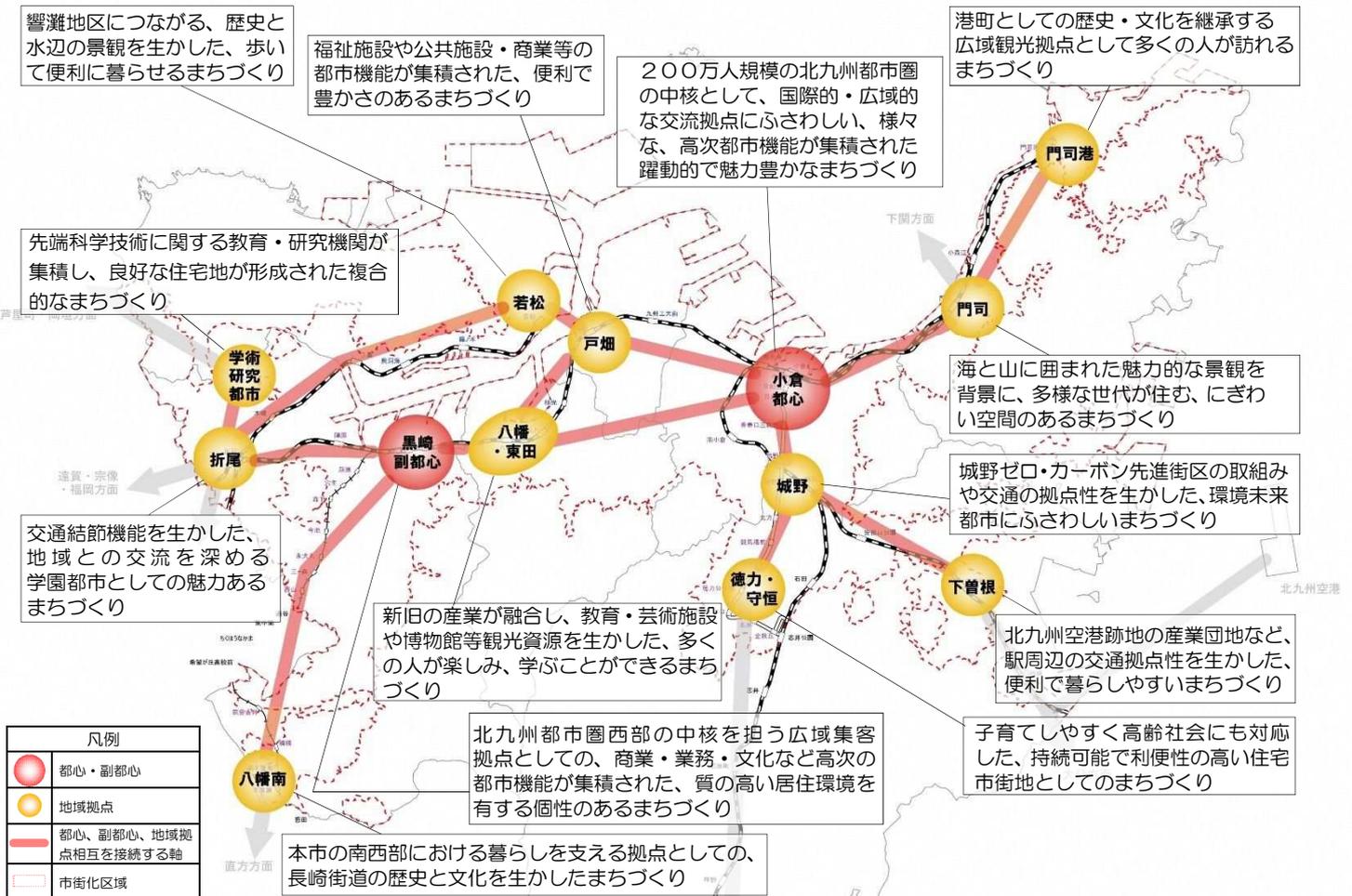
集約型の都市構造形成が進むと



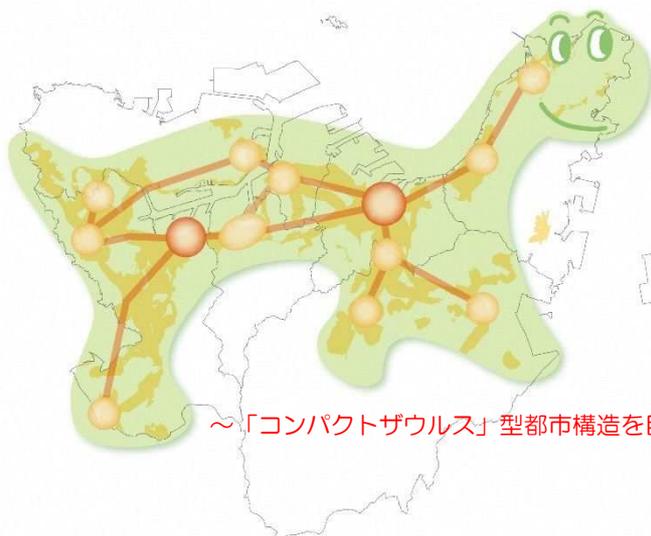
(4) 都市空間形成の方向性(将来都市構造)

本市は、これまで、北九州市都市計画マスタープランにおいて、「街なか」の重点化や「拠点地区」における都市機能の強化を都市づくりの基本としてきましたが、今後とも、これら「街なか」の「拠点」を重視する考え方を継続することとします。

本市の目指すべき都市像を描くと、下図のとおり、都心・副都心、地域拠点とこれらをつなぐ軸を骨格とする都市構造となります。



拠点の構造とまちづくりの方向性



～「コンパクトザウルス」型都市構造を目指して～

コンパクトザウルス

北九州市の拠点とこれらをつなぐ軸を骨格とする、都市構造型キャラクター。子供たちをはじめ多くの人に、コンパクトなまちづくりに関心を持ってもらうため、現れました。街なか出身。